

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

「話題づくり」に留まらない意志を秘めたご当地検定 2冊目の「ちちぶ学検定公式テキスト」

文・春田 高志

2009年4月、埼玉県秩父地方のご当地検定「ちちぶ学検定」の、2冊目となる公式テキスト『やさしいみんなの秩父学 [自然編]』を刊行しました。[風土・歴史・民俗]のジャンルを扱った前作(2007年3月発行)と同様、弊社は秩父商工会議所から制作と販売の委託を受けました。

ご当地検定の「公式テキスト」は全国にたくさんあります。しかし、シリーズ化して続編を出したケースは少ないのではないのでしょうか。

埼玉県最奥地の山間地帯、人口約11万人の地域を、検定によって活性化させる取り組みを紹介します。

【観光地としての再生】

商工会議所との最初の打ち合わせで、検定の意図を説明していただきました。それは、弊社が考えていたご当地検定に対する安直なイメージ、「話題づくりとまちおこし」とは異なるものでした。以下に要約します。

◎秩父の経済を支えていた産業は衰退している。これからは、多くの観光資源をもとに、観光地として生き返らなければならぬ。

◎外から見た秩父には、夜祭や芝桜、長瀨の岩畳などを象徴とした「観光地」というイメージが定着しつつあるが、地元住民にとっての秩父は「産業のまち」だ。

◎外と内のイメージのズレを修正することが急務。それは、住民に対して、観光地としての自覚を促すことと、外から訪れる方に秩父を説明できるよう、地元に対するさまざまな知識のベースアップを図ることである。

◎そのために検定とテキスト制作の企画



2冊のテキストと小昼飯ブックレット

を立ち上げた。検定受検者も合格者も多いにこしたことはないが、その人数にこだわりのない。それよりも住民の「もてなす心」を育み、観光のまちとして再生するきっかけをつくりたい。

この第1回目の打ち合わせが2005年4月。秩父再生の意志は現在もブレずに、検定以外にも秩父商工会議所のさまざまな取り組みの基盤となっています。

【制作のサポート】

内容の検討、執筆者の選定など、ほぼスタートラインと呼べる地点から、弊社が参画することになりました。弊社がこれまで培ってきた人脈を基盤に執筆者が決まり、数回の編集会議を設け、全体の構想を組み立てていきました。

「読者が検定を受けなくても、読み物として楽しんでもらえるものにする」、編集作業中、常に意識していたテーマです。執筆者の方々は、限られた紙幅にできるだけ多くの事柄を盛り込もうとします。無駄を省いた文章は、専門的で固い内容になりがちです。[自然編]では、民俗に詳しい方にも執筆を依頼しました。自然科学分野の専門用語とデータが羅列された本にならないよう、「人の暮らしと自然」という視点を加えるための工夫でした。

【地元での販売】

商工会議所が秩父市内の商工会議所会員書店へ本を卸し、市外の書店は弊社の流通ルートで販売を行うことになりました。地元の書店に対しては、卸値を通常よりも低く設定したいという意向によるものです。

地元の本は地元で売るのが鉄則。しかも、内容的には類書がない上、ご当地検定という話題性まで付いてきます。秩父で売れないはずがありません。本が一番売れるエリアを譲ることに、惜しい気持ちもありました。

しかし、この方策は結果として続刊発行をスムーズにしました。低い卸値は書店のやる気を促し、地元書店6店は1冊目を2年足らずの期間で約3,000部販売。予想を超えた売り上げは、2冊目の制作を資金面で大きく支えることになったのです。

【継続する意志】

検定と並行した商工会議所の取り組みに、「小昼飯(こちゅうはん)」という失われつつある郷土食を再発見し、地元にも広めようというプロジェクトがあります。弊社はこの企画の核となるブックレットの制作にも、協力させていただきました。「小昼飯」も、もてなす心の創造に帰着する企画です。

2冊のテキストとブックレットの制作は、地元出版社が地域振興事業に協力するひとつのケースとして、良い結果を出せたのではないかと考えております。

目標とする状況は、まだずっと遠くにあると思います。なかなか目に見える結果が得られないかもしれません。しかし、単なる「話題づくりとまちおこし」で終わらせないという意志をもったこれらの取り組みが、秩父地域の長期的な活性化につながるかと信じています。

(はるた・たかし/さきたま出版会営業・編集担当)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『フォト・ルポルターージュ 四川大地震 —中国四川大地震の地震断層と被害写真集』 ●林愛明・任治坤著



2008年5月、中国・四川大地震が発生した。内陸逆断層型の地震で、その断層の総延長は285キロに及び、マグニチュード7.9(阪神大地震の30倍)、死者・行方不明者9万人、被害者総数4624万人という巨大なものであった。

本書は、その地震断層が地表に現れた箇所を追って撮影し、断層とその被害を報告した貴重な写真集で、資料的価値も高い。山、崖、段丘、河

床、田畑、道路や街中に現れた様々な断層と、道路、橋、鉄道、民家やビルの倒壊被害や、液状化、洪水、堰止湖および救援活動の様相が生々しい。なお、今回の大地震は、唐・宋時代の大地震のときに活動した地震断層に沿って出現したという話は興味深い。

◆2800円・B5判・112頁・近未来社・愛知・2009/5刊・ISBN978-4-906431-31-1

『絶景・珍景 ニッポン百景 —旅で出会った』 ●稲葉隆生著



逆さまになった喫茶店、その名も土居仲(どいなか)というバス停、全長68メートルにも及ぶ東洋一のエスカレーターなど、日本全国の絶景・珍景を選びすぎた写真が百点余り。全47都道府県を網羅している。思わずくすりと笑ってしまうものから、自然の妙に感嘆したり、いささかやりすぎの感が否めない巨大オブジェに苦笑したりと、インパクトのある写真が次々と登場する。そ

れぞれにキャプションがついているが、著者はカメラを片手に休暇を利用して全国各地を旅する現役の教師。たとえ観光スポットでなくても、面白い光景は各地に存在する。眺めているだけで旅行気分を味わえ、さらには是非この目で実物を見たいと思わせてくれる写真集。

◆1050円・A5判・111頁・アートヴィレッジ・東京・2009/4刊・ISBN978-4-901053-74-7

『インフラの源流はダム』 ●金子毅著



電力、水、水道、通信。人間が生きていくための生活基盤構造、即ちインフラである。それらを発生させ、動かす源流をたどればダムに行き着く。そうした強い信念から、著者は建設省、水資源機構などにおいて、ダム調査、建設、管理に生涯を賭けてきた。その集大成が、奥利根に建設した堤体積日本一の奈良保ダムである。ダムは総合芸術の成果品であり、自然との共生技術「連結と漸変」

であるとの理想を実現するため、奥利根の先人と呼ばれる老人を訪ねて知恵を借り、流域の四季と生活を知る。地元建築家の助言を得て、円形の資料館も付設した。このダムこそが、環境アセスメントと自然保護の先駆であったと述懐する。自然と真摯に向き合った土木技術者の物語である。

◆1200円・四六判・214頁・埼玉新聞社・埼玉・2009/4刊・ISBN978-4-87889-312-4

『左官礼讃2 —泥と風景』 ●小林澄夫著



1950年代後半から2007年まで、半世紀余にも及んで刊行された「左官教室」という月刊誌をご存知だろうか。その編集に40年、休刊後の今は月刊「さかん」の編集と、半生を左官の技と向き合ってきた著者が、左官とその技に寄せる思いを、美しい文章で綴る。左官学校を開設し、町を挙げて技術の伝承と育成に取り組む茨城県真壁(現桜川市)の地に立ち、戦後私たちは、眼に見

える物を大切にすればかりに、物を生み出す眼に見えないプロセスをないがしろにしてきたことに気づく。塗り壁が美しく見えるのは、その技術が工業的な管理されたものではなく、現場に開かれた技術であったからだという。心にしみるアンソロジーである。

◆2310円・四六判・271頁・石風社・福岡・2009/5刊・ISBN978-4-88344-171-6

『ブナの森通信 —朝日連峰 山小屋からの報告』 ●西澤信雄著



凡そ35年前、都会人だった著者は閉鎖されていた朝日鉱泉の宿を、山人として生活しながら現在の「ナチュラルリストの家」へと変身させた。登山競争とは縁のない、ブナの森に囲まれた自然の中から生まれた通信文—ある種の読者には退屈感さえ与えるだろう。美味しいブナの実、カサコソと音を立てる枯葉、そして銀世界、雪の上に足跡を残す動物たち、朝日を受けて解け落ちる梢の雪、

そしてまた芽吹きの時季—静かに流れる時間。著者は自分の周りの自然を宗教色なしに優しく描写してゆく。10年間のブナの森通信—各年ごと同じ月の変化も伝えていて、読者は自分の好みの時期の情報さえ豊かに知ることができる。

◆1680円・四六判・217頁・無明舎出版・秋田・2009/4刊・ISBN978-4-89544-496-5

売行良好書

期間：2009年5月16日～6月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ (2)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (3)『おかしな おかしな おかしのはなし』1575円・リーブル (4)『野菜をたべる』1260円・ベターホーム出版局 (5)『母系』3150円・青磁社 (6)『浅田家』2730円・赤々舎 (7)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (8)『左官礼讃2』2310円・石風社 (9)『子どもを生きれば おとなになれる』2100円・アスクビューマンケアー (10)『里山昆虫記』2625円・エッチエスケー (11)『飴と飴売りの文化史』2100円・弦書房 (12)『息子介護』1260円・筒井書房 (13)『本気で叱れば人は目覚める』1500円・アートヴィレッジ (14)『肥薩線の近代化遺産』2205円・弦書房



 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 6月号』420円・東京かわら版 (2)『街道を歩く 甲州街道』1890円・揺籃社 (3)『なまら蝦夷 7号』800円・松岡つとむ (4)『古書往来』2940円・みずのわ出版 (5)『川中島の戦いと北信濃』1680円・信濃毎日新聞社 (6)『中世の合戦と城郭』2625円・高志書院 (7)『太宰治検定公式テキスト』1890円・おおまち第2集客施設整備推進協議会 (8)『とほ 2009 - 2010』420円・とほネットワーク旅人宿の会 (9)『院内銀山史』2100円・無明舎出版 (10)『男子にオスメの少女マンガ大百科』399円・スモール出版

 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『広告批評 No. 336』1260円・マドラ出版 (2)『マカオのほほん』350円・凹凸之そと (3)『声の聞こえるハンディ図鑑 山野の鳥・水辺の鳥』1050円・日本野鳥の会 (4)『溶け出す都市、空白の森』2520円・赤々舎 (5)『photographers' gallery press no. 8』3990円・Ricochet (リコシェ) (6)『はじめての帝王学』315円・暗黒通信団 (7)『へびのせんせいとさるのかんごふさん』1680円・ピリケン出版 (8)『へびのせんせいとさるのかんごふさん』1680円・ピリケン出版 (9)『左官礼讃2』2310円・石風社 (10)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★


▼太宰治生誕百年

太宰治生誕百年を機に、新聞やテレビでは太宰治特集を組み、文庫「人間失格」の新装丁版や『人間失格ではない太宰治(新潮社刊、太田光編)等、関連書籍も多数刊行されているようです。センター扱い版元さんでもこのところ太宰関連本がいくつかが発行されました。太宰治の故郷・青森の北の街社さんから5月に刊行された『やっぱり、太宰治(市川溪二著・1000円)は、太宰に魅せられて青森県に移住までしてしまったという著者が、「太宰への溢れる思いを綴ったエッセイ。今回太宰作品を読み直して「やっぱり太宰」という思いを新たにすることからこのタイトルになったとか。また普段は言語学関連書籍を多数刊行しているひつじ書房さんが4月に出した、『昭和十年前後の太宰治—(青年)・メディア・テキスト(松本和也著・2940円)は、太宰のデビュー期にあたる昭和十年前後に注目してその像を根底的に描き直したという、精緻な分析に満ちた学術的内容。そして「おおまち第2集客施設整備推進協議会」というNPO法人が刊行した『太宰治検定公式テキスト』は、生誕百年記念として6月20日に五所川原市や三鷹市を会場に実施される太宰治検定試験の公式テキストということですが、今年の出題は作品『津軽』からで、来年以降も題材を変えながら継続されていくようです。この検定の収益は「太宰治と叔母き系『思い出』記念館(仮称)設立資金として活用されることが決まっているとのこと。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
 F A X : 0 3 - 3 2 3 5 - 6 1 8 2

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

